

革新的な施策を生み出せ!

自治体改善マネジメント研究会で開催された「チーム経営研究会」に当町の職員が参加した背景には、総合計画基本構想に掲げた

いたため、「若者移住・定住」の革新的な施策を生み出す政策開発を研究してみよと、まちづくり推進課政策係、若者定住係、広報情報係、バイオマス推進係、総務課行政係、財政係の6係長が命じられた



本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第43回

係長チームで生み出したまちのブランドコンセプト「ナショナルパークで暮らすアクアマリントウン」

感じていた。町ではすでに各種の事業は進めていて、それぞれが担当として業務を担っており、それ以上に何をイメージしているのかわからなかった。これまでの町の歴史を振り返ってみても、60年間人口が減り続けてきた町に残っている魅力は手つかずの自然ぐらしか思い浮かばない。

そんな中、まずは「若者移住・定住」を実現している他自治体の成功事例を調査してはどうかと勧められて先進事例を研究し始めた。すると、それぞれの自治体は環境やターゲットとしている移住者が違うこと、特に、成功しているところには、そのまちならではの地域資源を生かしたまちの魅力に住民と共有できる価値として長期ビジョンに掲げ、共通の価値観に基づいてターゲットを定めているとわかった。これが取組みの前提として重要なだと気づかされた。

まちの魅力をめざす姿から思い描く

それでも、検討当初は、町のめざす姿につながる若者移住・定住ストーリーを描くことができなかつた。どうしても役所文化と職員

としての経験が障害となり、現実の施策を積み上げるフォアキャストインクの思考から脱却しきれなかつたのである。

そこで、いま一度このミッシェンとして与えられた2045年のまちのめざす姿「生命力みなぎる常若のまち」の実現が大前提という認識を合わせ、STP分析フレームで実現したい姿からバックキャストイングして考えることにした。皆で話し合い、白板いっぱい。まちのめざす姿を具体化して描くうちに浮かび上がったのが、「ナショナルパークで暮らす」というまちのオンリーワン・ナンバーワンの魅力に、これから差別化策として築いていくアクアイノベーションとマリノイノベーションを掛け合わせた「アクアマリントウン」のブランドコンセプトと実現シナリオである変革プランだ。

このブランドコンセプトと変革プランの策定は、役場だけでは到底なしえなかつた。自治体改善マネジメント研究会のメンバーという外部の視点からの助言や伴走があつたのものである。同じ悩みを抱える自治体は一度研究会への参加を検討してはいかがだろうか。

まちのめざす姿「生命力みなぎる常若のまち」に向けて年少人口を111人から2045年に700人にV字回復させるという戦略目標があつた。

しかし、その実現は容易ではな

成功事例から見えて来た法則

革新的な施策と言っても何から検討していいかもわからず不安を

のだ。それゆえ、皆が戸惑いつつ研究会へ参加することとなった。